



2010年05月16日

【先週のメッセージより】使徒 1 : 3~11

証人として地の果てにまで

●エルサレム、ユダヤ、サマリヤの全土、地の果て

弟子たちはイエスから明確に世界宣教の指示を与えられた。やがて彼らは聖霊に満たされて、聖霊の導きに従い世界宣教に乗り出し、世界中に福音／十字架と復活のメッセージを広めて行ったのである。

●日本はまさに地の果て

イスラエルから見ると日本はまさに地の果てに位置している。預言者イザヤは繰り返し、地の果て、及び島々に対して呼びかけ、神を仰ぎ見て救われよ、と訴えている。これは神ご自身の訴えだ。16世紀以降、少なくとも三回にわたり、大勢のキリストの証人たちが日本にやって来て福音を伝えた。が・・・

●三回とも拒絶で答えた日本

第一波は1549にザビエル率いるイエズス会士たち。キリシタン大名たちが大勢興り、クリスチャン人口は10%にまでなったと言われている。しかし幕府は五人組、鎖国、そして日本人を皆仏教徒にすることで信仰を拒絶した。第二波は黒船来航／ペリー。大勢の宣教師たちが上陸し、多くのミッションが教育機関や病院を立ち上げ、婦女子の人権確保、社会の近代化に大きく貢献した。しかし明治政府は教育勅語を通し国家神道を導入、日本人を皆、天皇を現人神とする氏子とし、信仰を拒絶した。第三の波は太平洋戦争直後、千人の宣教師、大量の聖書を送ってくるように、というマッカサー元帥の要請に応じ、米国より大勢の若者たちが宣教師となって日本に来た。社会は一挙にキリスト教化するようが見えたが、朝鮮特需、国の復興に思いが向く中、物質主義が信仰の前進に急ブレーキをかけていったのである。

●日本は神抜きにどこまで行けるかのテストケース

日本人は世界中で最も長生きであり、最も高い生活水準を保ち、日本製品は世界の最高水準にあり、世界中の富が日本に集まる。1億人以上いながら驚異的に安全な社会を作り出したまぎれもない優等生である。聖書に出てくるあの「若い金持ちの役人」の姿が重なる。日本人



はこの世が提供することのできる全てを手に行っているが、たった一つ、持っていないものがある。それは、生きるための使命・意義を与えてくださる神との関係である。鬱、無気力、自殺、不登校、引きこもり、熟年離婚、援交、中絶、幼児虐待、凶悪犯罪等、もとを正せば神無き社会の論理的、必然的な結末なのである。

●この日本に福音を届ける第四の波になろうではないか。

神は私たちに先行的に恵みを注いでくださった。今の時代、日本国内で洗礼を受ける人の数と同等、それ以上の人々が海外で洗礼を受けるとされている。過去三回、海外から外国人たちが福音を伝えてくれたが、今こそ日本人自身がキリストの証人となって同胞の救いのために立ち上がることが求められているのではないだろうか。

【今週の暗唱聖句】 「成長」 129号 p 102より

イエスの復活の証人とならなければなりません。使徒 1:22

弟子たちが新しい使徒を補充するに当たって確認した働きは「復活の証人」となることである。つまり、イエスの復活が事実であると明確に証しすることができる者を選ぼうとした。そういう意味では、私たちも使徒たちと同じ働きを求められている。私たちの宣教は、自分に現れてくださった復活のイエスを証しすることに他ならない。■

【霊的な戦い（2）見えざる世界】 三つの霊的存在

●クリスチャンは皆、霊的な戦いの中にあることを前回書きましたがこの戦いの性質を理解するために「霊的世界」とはそもそも何であるのかを知る必要があります。聖書はこの世の中に、霊的な存在が三つあることを教えています。第一は神、第二は御使い(天使)、第三が人間です。

●この三者に共通しているのは何でしょうか。それは人格を持っている、PERSONである、ということです。人格を持つことはさらに、自由意志を持つ、高度な言葉を有することを意味しています。類人猿がどんなに人と似ていたとしても、本能に従って生きている

ので霊的な存在ではないのです。

●では三者の違いは何かというと先ず、神は時間・空間を含め全てを創造された創造主であり、御使いや人間のように存在を他者に依存しておらず、完全に聖、義、愛なるお方であるということです。

●次に、御使いは、聖書の様々な記事から総合するなら、人間とは異なった次元に存在しているがら、人間の世界とも行き来でいる存在のようです。御使いについてはさらに、過去において1/3の御使いがサタンを頭として神に反逆し、墮天使となり悪魔そして悪霊になったことが聖書に記されています。（次号に続く）